

研究開発

～ぴったり技術で明日をつくる Sticking to your needs～
 ニチバングループの強みである粘着技術をベースに
 環境課題や社会課題の解決につながる
 技術開発・製品開発を通してサステナブルな社会や
 快適な生活に貢献していきます。



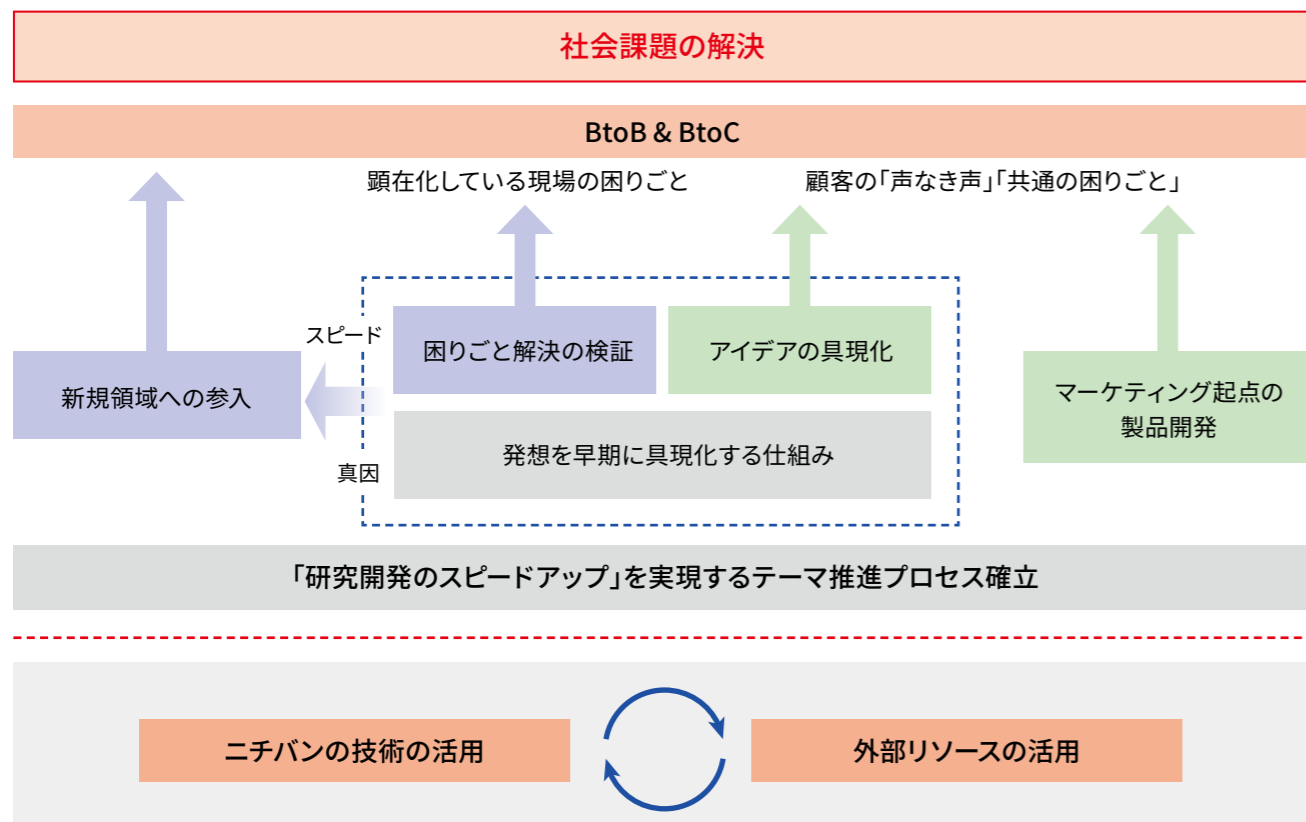
上席執行役員
 研究開発本部長
 岡井 和久

研究開発の方針

ニチバンのコア技術である粘着技術は、適切な粘着強度、耐候性、貼りやすさ・はがしやすさ、透湿性・低刺激性など、用途と目的によってさまざまな機能が求められます。ニチバンの製品は、長年培った技術をもとに、最適な粘着剤の設計、フィルム等の基材の選択と調整、塗工技術、剥離剤

等の材料技術などを組み合わせることで製造されています。人々の快適な暮らしに貢献し続けるために、今後も高機能・高付加価値な製品を開発し、提供するとともに、新しい領域にも挑戦していきます。

スピードアップのための研究開発フロー



環境・社会課題の解決に貢献する製品開発

■ 環境・社会課題の解決に貢献する開発基準の策定

ニチバンでは、研究開発の段階から環境・社会課題解決に資する視点を取り入れています。製品の環境負荷は「どう設計されたか」で決まるため、研究開発フローのなかでSDGsへの貢献を意識することはライフサイクル全体にわたって環境負荷の低い製品を生み出すことにつながります。更に、環境・社会課題の探索のなかで新製品のアイデアを発掘することはサステナブルな社会づくりへの貢献となります。これらはすぐに成果が出るものではありませんが、これからのニチバンが「ありたい姿」を実現するとともに、未来のニチバンのお客様がサステナブルな製品を選択することができるよう、製品を製造、販売するメーカーとしての責任を果たしていきます。

■ 環境に配慮した開発テーマ・新製品開発の促進

市場性だけでなく、環境・社会課題に貢献する開発テーマの探索を行っています。また、開発品の環境負荷を全ライフサイクルにわたり評価を行うとともに、原材料の化学物質含有情報や枯渇資源への配慮を可視化して管理しています。更に、CO₂排出量削減の2030年度目標達成に向けて、2022年度より開発組織もサステナビリティ委員会に参画し、研究・生産と一体となり環境対応製造方式による新製品開発の取り組みをスタートしました。社内標準化委員会では、アイデア発掘、企画、製品の設計、工程設計、生産、販売、廃棄に至るすべての過程でSDGsの視点を持つ研究開発フローの検討を行い、サステナブルな製品開発の促進に向けて活動しています。

イノベーション創出

■ スタートアップとの協働

中期経営計画【ISHIZUE 2023～SHINKA・変革～】では、「イノベーション創出」を特に重視するテーマに掲げています。国内外のスタートアップ企業との協業プログラムに参画し、スタートアップ企業や大手企業パートナーとのN対Nの協業機会の探索を推進するとともに、社内のイノベーション文化を育成・醸成しています。

新たな価値創造につながる先端テクノロジーや革新的なビジネスモデルを持つスタートアップ企業との連携、協業により、新規事業の創出を目指します。

■ グループ社内提案制度

ニチバングループ社内提案制度は「顧客目線開発」「社員エンゲージメント向上」を目指して大幅な改善を行い、2020年11月に「NBrain(エヌブレイン)」として再スタートしました。NBrainは、ワークフローシステムから提案を行う「製品提案」と社内SNSを活用した意見交換の場である「idea farm」で構成されています。NBrain発の新製品はまだ実現していませんが、全従業員の開発意識を高めるだけでなく、制度を通じた活発な意見交換により、知識・知恵の交流にも貢献しています。

知的資本の取り組み

ニチバンは、研究開発で培ってきた技術を活かし、「人に優しい」「環境に優しい」さまざまな粘着製品を生み出しています。新たな価値創出を進めるなかで、知的財産はますます重要となっています。私たちは、他社との協働によるイノベーションの創出に基づく研究開発をサポートする体制

の構築を進めています。また、製品・技術を守り利益を確保するために知的財産の権利化・維持を行うことを、強い企業に向けて持続的な成長を支える重要なファクターとして位置づけ、推進しています。更に、社内の知財教育と海外展開に応じた知的財産の取得を継続的に行っていきます。